

全国各地で多発する土砂災害に備えるため、住民主体の訓練が芦屋市立朝日ヶ丘小学校で実施されました。市と地域との連携による避難行動要支援者への支援体制強化を図るために、たくさんの協力機関が参加しました。

また、六甲砂防事務所では、市民の防災意識の高揚や地域防災力の向上を目的として「六甲山地における土砂災害についての模型・パネル展示」を行いました。

概要

日時：平成29年 7月2日（日）9:00～12:00

場所：芦屋市立朝日ヶ丘小学校

主催：芦屋市

参加人数：約969名



昭和42年7月9日の夕刻から夜半にかけて、最大時間雨量69.4mm、累加雨量371.2mmを記録する豪雨があり、阪神地域では38,305戸（芦屋市では被害家屋1,247戸）という大きな被害が起きました。昭和42

年7月豪雨災害から今年で50年の節目となります。当時に比べて多くの砂防堰堤が設置され、斜面对策も行われてきました。六甲山麓の市街地はこのような対策によって守られています。

芦屋市でも過去には実際に土砂災害が起き、多くの人命や家屋が失われました。六甲砂防事務所では、被害状況や事業概要などのパネルを展示し、過去の土砂災害の怖さを知っていただくと共に、砂防事業の取り組みなどを説明しました。

また、土砂災害と砂防堰堤の効果を知っていただくため、土石流模型実験を行い、視覚的にもわかりやすく子供達にも好評でした。

地元住民の方々からは、多くのご質問をいただき、土砂災害に対する知識をより深めていただくことができました。



【お問合せ先】

国土交通省 近畿地方整備局
六甲砂防事務所 調査課

〒658-0052 神戸市東灘区住吉東町3-13-15
TEL：078-851-0535

